

箱根路を（源実朝）

解説 供のものにこの海の名を知っているかと尋ね、広々とした海の眺めを「伊豆の海や」と用い、同時に沖の小島に目を向けた。作者は箱根権現に参拝し、伊豆権現に詣でるため山道を下った。

箱根路をわが越えければ伊豆の海や

語釈 語釈 ※箱根路Ⅱ神奈川県（相模国）西南部。つつじ、紅葉で名高い。江戸時代最も厳しい取締りをした関所のあった所。
※伊豆Ⅱ静岡県東部の半島。太平洋に突出して駿河湾と相模湾とを分けている。※沖の小島Ⅱ熱海市東方にある初島をさすのであろうといわれている。

沖の小島に波の寄る見ゆ

通釈 箱根の山路を越えてやってくると、眺めのよいところに出た。そこからは伊豆の海が目の前に広がって沖の小島に白い波が寄せているのが見える。と、